

大阪急性期・総合医療センター医学雑誌投稿規定

1. 本誌は大阪急性期・総合医療センターの機関誌として年1回以上発行する。
2. 投稿者は当センターの職員とする。但し、当センター職員以外の者であっても学術広報委員会の承認を得た場合にはこの限りでない。
3. 本誌に掲載された論文の著作権は当センターに帰属する。
4. 本誌の内容は総説、原著、症例報告とする。症例報告における患者情報保護に関する指針については別紙記載の通りとする。
5. 投稿論文は他誌に発表されていないものに限る。
6. 論文作成に際しては、プライバシー保護の観点も含め、ヘルシンキ宣言（ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告）ならびに臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省（平成15年7月30日、平成16年12月28日全部改正、平成20年7月31日全部改正）が遵守されていること。
7. 掲載原稿は採否及び順位は学術広報委員会で査読を行い、これを決定する。
8. 編集の都合により、原文の論旨を変えない範囲内で著者に訂正を求めることがある。
9. 校正は最終校を除き著者が行い、校正は誤植の訂正程度にとどめ、版の組みかえにはならない。
10. 掲載料は無料とする。別刷は著者（共著の場合も1名とみなす）に30部を贈呈する。それ以上の部数と表紙のつく別刷は実費を徴収する。
11. 掲載原稿（図表等を含む）は原則として返還しない。
12. 原稿執筆の要領は次のとおりとする。要領に合わない場合は著者に修正を求める。
 - (1) 原稿は邦文とし、A4版用紙を用い、横書き、文語体、平仮名、当用漢字、現代仮名使いを使用する。原稿はワードプロセッサを用い、ダブルスペースで印字する。上下左右に30mm程度の余白をとり、左揃えとする。文字は12ポイント相当以上を用いるのが望ましい。
 - (2) 電子ファイル形式としては、以下を推奨する。

本文：Word (DOC, DOCX)
図・表：Excel (XLS, XLSX), PowerPoint (PPT, PPTX).
写真：画像 (JPG, TIF)

なお、印刷に必要な写真の解像度は、雑誌掲載サイズで300dpi以上が目安である。
 - (3) 論文の長さは、原著の場合は7,200字以内（図表を含む、刷り上り5頁以内）、症例報告の場合は5,200字以内（図表を含む、刷り上り4頁以内）とする。総説の長さは、その都度、学術広報委員会で決定する。
 - (4) 論文標題には英文タイトル及びローマ字による著者名を併記する。英文タイトルは各termの頭文字のみを大文字とし、ローマ字の著者名にはM. D. 等をつけない。
 - (5) 論文には5個以内の英語のKey Wordsをつけ、Key Wordsはそれぞれ最初の文字を大文字とする。
 - (6) 原著及び症例報告には200字程度の日本語の要旨をA4版ダブルスペースで2枚以内の英語のAbstractをつける。
 - (7) 図、表には邦文の表題を図では下方に、表では上方につける。写真は図とする（文中においても）。カラー写真は採用しない。
 - (8) 図に使用する画像データの匿名化に際しては、CT画像等をパワーポイントに貼り付けてその上から黒い四角で患者氏名等の個人情報を消すのみでは不十分であるため、更にCT画像等と黒四角を一体化させた単一の画像ファイルを新たに作成して使用すること。
 - (9) 図表の挿入箇所は原稿用紙に右欄外に朱書きとする。

- (10) 外国人名，地名，薬品名は原語又はカタカナを用いる。
- (11) 度量衡はCGS単位とし，km，mm，ℓ，dℓ，mℓ，kg，g，mg，mEq/ℓ，mg/dℓ等を用い，数字は算用数字とし，1，2，3等を用いる。
- (12) 学会に既に発表している場合には，その旨を末尾に記載する。
- (13) 引用文献は出現順に番号を付し，本文の終りにまとめて記載する。著者，表題名は完全に記載する（ただし，著者は10名以内とする）。外国雑誌はIndex Medicus，邦文雑誌は日本医学雑誌略名表による略名を使う。論文は最初の頁と最後の頁を記入すること。

例

- 単行本 1) 堀内淑彦：アレルギーと自己免疫病のすべて，鈴木秀郎編，11-22頁，南江堂，東京，1973
 2) Mackay B, Osborne BM, Wilson RA：Ultratructure of lung neoplasms. Lung Cancer, Clinical Diagnosin and Treatment, edited by Straus MJ, p71-76, Grune & Stratton, New York, 1977
- 雑誌 3) 芝 茂：悪性リンパ腫の化学療法，最新医学，19：23-31，1964
 4) Strott CA, Nugent CA, Tyler FH：Cushing's Syndrome Caused By bronchial adenoma. Am J Med 44：97-102, 1968

引用文献の番号は，本文中の右肩に記入する。記入例：1)，1, 3)，1～3, 5)

13. 投稿にあたっては，12. の要領で作成した原稿を記録してあるファイル（OSはWindows，Macintoshとも可）を（院内メールまたは院外メールで担当者に）提出すること。

14. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある。

（平成21年5月25日一部改定）

（平成21年9月15日一部改定）

（平成23年6月3日一部改定）

（平成25年5月1日一部改定）

（平成29年6月5日一部改定）

註：学術年報における報告，論文等の記載も投稿規定12(13)に準ずる。

症例報告における患者情報保護に関する指針

患者の個人情報（プライバシー）の保護は，医療者に課せられた義務である。当然ながら症例報告に際しては，個人の特定ができないようにする配慮が必要である。症例報告の医学・医療の進歩・発展における重要性に鑑み，学術広報委員会はここに，症例報告における個人情報の記述に関する指針を公表する。

以下の各項目に記述された事項は，疾病の提示・理解に必要な不可欠である場合を除いて，可能な限り遵守されるべきである。

- 1. 患者の氏名，イニシャル，雅号は記述しない。
- 2. 患者の人種，国籍，出身地，現住所，職業歴，既往歴，家族歴，宗教歴，生活習慣・嗜好は，報告対象疾患との関連性が薄い場合は記述しない。
- 3. 日付は，記述せず，第一病日，3年後，10日前といった記述法とする。
- 4. 既に診断・治療を受けている場合，他院名やその所在地は記述しない。
- 5. 顔面写真を提示する際には目を隠す。眼疾患の場合は，眼球部のみ拡大写真とする。
- 6. 症例を特定できる生検，解剖，画像情報の中に含まれる番号などは削除する。